

# 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	2971800038		
法人名	川西町		
事業所名	ぬくもりの郷グループホーム		
所在地	奈良県磯城郡川西町大字吐田94番地		
自己評価作成日	平成26年2月17日	評価結果市町村受理日	平成26年3月31日

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

周辺はとても静かな環境で、畑に囲まれた景色の中でご近所の方にも温かく見守っていただきながら皆さん穏やかに生活していただけるように取り組んでいます。

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

当ホームは、地域公共団体が設置し、社会福祉法人に委託して運営されています。大きな屋根は素晴らしい瓦でおおわれ風格さえ感じられます。また、ホーム内は清掃が行き届いた明るく広い共用空間が確保されており、季節を感じられる適度な装飾もされ、ゆっくり・穏かに過ごせる場所となっています。利用者は、このような環境の中で、職員の優しい見守りの下、特技等を活かしながら一人ひとりのリズムで生活されています。

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/29/index.php">http://www.kaigokensaku.jp/29/index.php</a>
----------	---

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	奈良県国民健康保険団体連合会		
所在地	奈良県橿原市大久保町302-1 奈良県市町村会館内		
訪問調査日	平成26年3月6日		

**・サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目		取り組みの成果 該当するものに印	項目		取り組みの成果 該当するものに印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	1. ほぼ全ての家族と
		2. 利用者の2/3くらいが			2. 家族の2/3くらいと
		3. 利用者の1/3くらいが			3. 家族の1/3くらいと
		4. ほとんど掴んでいない			4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	1. ほぼ毎日のように
		2. 数日に1回程度ある			2. 数日に1回程度
		3. たまにある			3. たまに
		4. ほとんどない			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	1. 大いに増えている
		2. 利用者の2/3くらいが			2. 少しずつ増えている
		3. 利用者の1/3くらいが			3. あまり増えていない
		4. ほとんどいない			4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	1. ほぼ全ての職員が
		2. 利用者の2/3くらいが			2. 職員の2/3くらいが
		3. 利用者の1/3くらいが			3. 職員の1/3くらいが
		4. ほとんどいない			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての利用者が
		2. 利用者の2/3くらいが			2. 利用者の2/3くらいが
		3. 利用者の1/3くらいが			3. 利用者の1/3くらいが
		4. ほとんどいない			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての家族等が
		2. 利用者の2/3くらいが			2. 家族等の2/3くらいが
		3. 利用者の1/3くらいが			3. 家族等の1/3くらいが
		4. ほとんどいない			4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	1. ほぼ全ての利用者が			
		2. 利用者の2/3くらいが			
		3. 利用者の1/3くらいが			
		4. ほとんどいない			

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Alt+)- + (Enter+)-です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>理念に基づく運営</b>					
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念に基づき実践につなげていけるように努力している。	利用者の自主性と人格を尊重し、地域との交流も重視した運営を理念に定め、実践に活かす取り組みをされています。	
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	周辺が畑に囲まれており接する方は限られているが、挨拶や言葉を交わしたり畑でできたお花をいただくなど温かく見守られている。外に出での交流は少なく、町内行事の時は訪問に来てくださる。幼稚園には年数回行っている。	立地的な環境から、日常的な交流に希薄感がありますが、町内行事への参加や幼稚園児との交流、また、周辺で農作業をしている方々との交流等地域との関わりに拡がりが見られます。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	中学生の職場体験や看護学校実習の受け入れに取り組んでいる。一般の方の見学、相談にも対応している。		
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	二か月に一度運営推進委員会を実施現状の報告、問題点等も話し合い向上につながるよう努めている。	運営推進会議は定期的開催され、活動報告や利用者の状況・地域活動等について論議し、出された意見等は運営に反映されています。	
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	行政が事業主体で運営を委託されているので、協力関係を密に行っている。	事業所の設置主体が行政であることから、連携は密に図られています。	
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	定期的な研修に参加し理解をしたうえで、職員全員で拘束のない生活を過ごしてもらうように努めている。	身体拘束の弊害を正しく理解し認識を深めるために、研修を行い実践に活かす取り組みをされています。	
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	定期的な研修に参加し虐待に対する認識を深め防止することを意識している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	学んでいるが活用まではできていない(今のところ対象者なし)詳しく理解する必要がある。今後講習に参加する予定。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	マニュアルに添った契約説明以外にも、家族の不安を聞き出し理解を得るまで話し合いをします。		
10	(6)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時や受診時なども家族と話す機会をもち意見しやすい環境づくりに取り組んでいる。推進委員会や家族会でも要望等を聞き、それを反映できる努力をしている。	家族の訪問時や運営推進会議等で不安に感じている事や意見・要望等の聴取が行われ、これらの意見等を記録・検証し、運営に反映させる取り組みをされています。	
11	(7)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月一回グループホーム会議等で意見できる機会をつくり反映させている。	毎月のグループ会議で、運営に関する事項について意見交換し、必要な事項は運営に反映されています。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	特に福利厚生面が整っており働きやすい環境にある。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月一回研修または勉強会があり、参加できない場合も研修記録を読み内容を把握している。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	職場外での研修に参加し同業者の方と交流し意見を聞くことで向上につながるよう取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	日々のかかわりの中で本人の思いを傾聴し、家族からも情報を集め、安心できる話かけが出来るように心掛けている。		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	面談時等に家族、本人の困りごと、要望をしっかりと聞き関係づくりに努めている。		
17		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	必要と思われる支援が他にもあるならしっかり説明し、アドバイスしながら話し合う。		
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常の会話や家事の分担など、生活を共に楽しく過ごせるようにしている。		
19		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族とは電話での報告、相談や面会時等に話しそれぞれの立場から本人について意見し合い、共に支えていく姿勢を伝えている。		
20	(8)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	隣に併設しているデイサービス利用者との交流の時間を持ったり、よく通っていた近所のお店に買い物に行き、昔の話を聞かせていただく。	馴染みの人、場所との関係の維持は極めて大切との思いがあり、買い物の同行等の支援に努められています。	
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	全員でレクリエーションなど参加し一体化して楽しむ。気の合う方と同席になるようテーブル席などにも工夫や配慮を行う。職員が間に入り会話することで独立せずかかわりあえている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後も家族から相談があればお答えしています。他の施設への入所などで面会が可能であれば本人に面会に行くこともある。		
<b>その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人一人と会話の時間をもち、希望や意向を聞き出し実現に努めている。表現の難しい方でも日々の生活のかかわりの中で読み取る努力をし意に添えるよう心がけている。	暮らしの中での言動を詳細に把握・記録し、サービスに活かす取り組みをされています。	
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	フェースシート以外にも実際に家族や本人、かかわりのある方から話を聞き情報を集めて、グループホームでの生活につなげている。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人一人の表情の違いや体調管理に気をつけ、少しの変化でも気づきに記入し引き継ぎ常に状態を把握し対応する。		
26	(10)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	その都度必要であれば担当者会議を行い本人、家族の意向をふまえ現状に適した介護計画を作成している。	介護計画の作成と適切な支援のための見直しの必要性を正しく理解し、関係者で適宜意見交換等をされています。	
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人ファイルに記録し共有している。支援経過も作成し計画の見直しを行っている。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人の状況の変化をその都度家族に説明、相談し日常の変化に伴うよう努めている。その時々ニーズに合わせて対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の方のボランティア訪問などで交流の場を持ち暮らしの中で楽しみを持つよう支援している。		
30	(11)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医は本人と家族の希望を最優先しており、受診時に家族では伝えるのが困難な場合や状況の説明が必要な場合は手紙や電話で職員がドクターに伝える。	かかりつけ医については契約時に相談し、本人の希望を優先した支援が図られています。なお受診に際しては、暮らし等に関する情報を伝え、適切な医療の確保に努められています。	
31		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	いつもと違う状況や変化あれば看護師へ報告し適切な指示を仰いでいる。		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は、グループホーム利用中の情報提供を行い、入院中は家族と連絡をとり状態を確認する。入院時、退院時は病院関係者、家族を含めカンファレンスを行い情報を共有している。		
33	(12)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化の傾向がある場合話し合いの場を持ち本人、家族にとっていい方法を考慮している。できる限りの支援を行うが終末期については現段階では対応していない。	終末期への明確な指針があり、関係者には理解・認識が浸透しています。なお、レベル低下が見られる時には、その都度関係者で協議する事とされています。	
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的に勉強会を行い実践力を身に付けている。		
35	(13)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の避難訓練を実施している。推進委員会で地域の方への協力体制を呼びかけ協力していただける話ができている。職員間も緊急時の連携、手順等を把握している。	定期的に消火・避難訓練を実施し、緊急通報装置も整備されています。又、周辺住民への協力支援の働き掛けをされています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人一人の性格を理解した上で言葉がけや対応を行っておりなれあいにならないように注意している。	一人ひとりに合わせた言葉掛けや、語調に配慮した対応がなされています。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	表現が困難な場合もゆっくりと傾聴し表情や行動などから感じとる。意思を尊重できる働きかけをしている。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日の流れはだいたい決まっているが、本人の希望を優先し、自宅で過ごされていたリズムに近い生活を過ごせるよう配慮している。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎日の身だしなみは必要なら整えるお手伝いをしています。化粧をしてきを使われている方もおられ、声をかけて髪をとかれる方もおられるのでその人に合った支援をしています。整容の日をつくって爪切り等は決まっています。		
40	(15)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	本人や家族と話すことで一人一人の好みは把握しているつもりです。毎日の手伝いは個人によって難しい方もおられるが月に数回手づくりランチ等の日をもうけ、一緒につくり感想などを話しながら一緒にたべている。	食材の整理・調理の準備や配膳・後片付け等、一人ひとりの能力に応じて協働し、静かなBGMの中、職員と一緒に和やかな雰囲気の下で食事をされています。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立は栄養士によってメニューが作成されている。水分量が少ない方は本人のペースに合わせこまめな水分補給をすすめています。水分量、食事量を把握するためチェック表を作成する方もいます。		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食前、食後にうがいをしている。義歯の方は夜間預かり洗浄、それ以外も起床時、夕食後は歯磨きを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個人の排泄パターンを把握し失禁の不快感を出来るだけ防ぎトイレ内での排泄ができるように誘導し支援している。	一人ひとりの排泄パターンの把握・記録と行動観察によりトイレ誘導をされ、自立排泄への支援に努められています。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便周期を把握し水分摂取や運動を行い予防につとめている。		
45	(17)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	基本的に夕食前に入浴しているが本人の気分や体調に合わせて良い状態で入浴できる支援を行っている。訴えあれば意に添っている。	入浴日や時間帯を設定されていますが、本人の希望を優先した支援に努められています。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人になじんでいる寝具を使用していただき、照明のコントロールや温度管理に努め安心して眠れるような環境づくりを心がけている。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	毎回処方箋をもらいファイルを作成、すぐに閲覧できる状態にし、薬の内容を理解している。変更等あれば必ず引き継ぎ確認行う。		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	本人、家族と話をすることで生活歴を聞き出し、その方に合った趣味や好みの作業をしたり、毎日のレクリエーションに工夫を加えることで気分転換の支援をしている。		
49	(18)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	その日の希望に沿ってすぐ対応となると限られているが、希望を事前に聞き準備し出かける機会は増えている。ドライブや買い物も出かけ、家族と外出もできている。	事業所周辺の散歩の日常化と買い物・外食等による外出機会の確保をされています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の管理は主に職員がしており自己管理はできていない。一緒に買い物に出かけ自身で支払いをしたり、訴えあればすぐ渡せるような支援をしている。		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	一名の方は携帯電話を所持しておられ自室で自由に家族と会話している。他の方は希望あれば意に添い行事がある時は家族と一緒に手紙等を書く支援を行っている。		
52	(19)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	清掃は毎日行っている。食事時にはリラックスできる音楽を流し、壁画などを工夫し季節感を出している。フロアーから見える位置に花を植えたり穏やかに過ごせる生活空間づくりをしている。	共用空間は、清掃・整理が行き届き、清潔保持に努められています。また、採光への配慮や季節感を演出した装飾に工夫し、穏やかに過ごせる場所となっています。	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	全居室が個室になっているため一人になれる空間は確保できている。気の合う方同士で話されていたり、一人でテレビを見るのを好む方もおられ、大体の方が自身のペースで過ごせている。		
54	(20)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家具など使い慣れたものを持参下さいと家族にもお伝えするが、古いものはほとんど持ってこられない。家族の写真や置物を飾っている。	居室は和室と洋室を準備されています。使い慣れた家具や好みの品が持ち込まれ、安心して過ごせる居室となっています。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物はバリアフリーであり安全に移動している。トイレ、洗面、浴室には手すりが設置されておりそれを使用して生活されている。		